

カンテイジ 乾真寺 金澤淺野川上の鍋屋地町(吹屋町)に在つて、當山派の山伏であつた。山號は聖平山。永祿十年觀明院が寺を越中高岡に建立し、前田利長の時寺地六百歩を賜はつたが、その後金澤に移り、延寶元年寺號を改めたといふ。今は存せぬ。

カントウセイバツ 關東征伐 天正十七年十月十日豊臣秀吉は命を諸將に傳へ、明年三月を以て小田原征討の期とした。是を以て前田利家は前田安勝・村井長頼・前田長種をして尾山城を留守せしめ、二月十日先鋒を出し、二十日利長と共に東山道に向かうた。三月朔日秀吉自ら京都を發し、十六日利家をして北陸七國の總督たらしめた。既にして利家は碓井峠を越えて進み、松枝の守將大道寺政繁を招降せんとしたが、政繁は背じなかつたから、三月二十八日長圍の策を取り、四月十九日上杉景勝の軍と共に突貫した。政繁乃ち支へ難きを知り、二十日降を容れた。時に武藏松山の將上田朝廣は小田原に在つて、部將難波田憲次・木呂寺友則之を守つたが、亦二十一日降を請うた。五月利家關東總督に任せられ、十九日景勝と共に同國鉢形城を圍んだ。城主北條氏邦善く戦うたが、六月十四日髮を剃つて出で降した。次いで利家等同國八王子城に向かうたが、城主北條氏照は小田原に居たけれども、部將横地吉信・中山家範・狩野一庵・金子家重・近藤助重等は反噬の勢を示した。因つて廿三日上杉軍は大手に、前田軍は搦手に向かひ、猛攻して斬賊一千餘・俘虜三百餘を獲た。この役今石動の城主前田利秀、

利家の從臣村井長次・薩原一孝・富田重政等最も戦功があり、武者奉行野村傳兵衛以下廿八人に死し、利長の率ある所も死傷半に達したといふから、如何に熾烈であつたか知られる。蓋し秀吉が利家の常に招降緩撫を主とするを喜ばなかつたから、一猛撃を加へて腕を示したものであると言はれ、翌年正月利家を參議に進めたのは、之に對する報賞の意味でもあつたのである。

ガントクジ 願徳寺 清澤願徳寺は石川郡鶴來なる今の字清澤町の山上に在つて、金劔神社の南に隣つて居た。加越能舊跡緒に『鶴來領之内元徳寺昂とて有。二百年許以前に元徳寺と申寺有之由。清澤と申清水も有。右元徳寺此邊に有之由。清澤の元徳寺と唱候由。』といふ者是である。拾遺記に、『清澤の坊は本泉寺蓮悟開基也。永正五年秋八月比より近所の輩す、むるにより建立す。永正十年五月朔日より實悟居住す。石川郡一圓に寄力として住す。』と見え、初は清澤坊といふたが、實悟兼俊の住持した後實如上人から願徳寺の號を受けた。これ反故裏書に實悟を願徳寺の開祖とする所以である。蓮悟兼俊は永正十四年に清澤上人の號を興へられたといふから、言繼卿記大永七年の條に清澤とあるも、亦蓮悟のことであらう。この寺享祿中に至りて廢し、永祿中河内國大塚に再興した。今大場願得寺といふ。

カンナシチベイ 神波七兵衛 初め朝倉義景・織田信長に仕へ、天正十一年前田利家に屬し、浪人分として利長に隸せしめられ、次いで越中守山に隨うた。子七左衛門長仍以後坂野氏を冒した。

ガニューウジ 願入寺 鳳至郡百成大角間に在つて、眞宗東派に屬する。

ガニヨ 元女 羽咋郡押水大海庄にある部落。

カンニリヨウ 堪忍料 從來多額の知行を有したるものを、少額にて召仕ふ場合の知行高をいひ、他の主人より新たに來仕したる時、或は父の死後年少なるが爲に一時減知せられる時にもいふ。又堪忍分といふこともある。

カンヌシマチ 神主町 白山比咩神社の前で、所屬神主の住宅があつた地をいふ。白山諸雜事記に『神主中居屋敷郡合千貳百歩白山村領内也』とある。

ガンネンジ 願念寺 金澤野町に在つて、眞宗東派に屬する。

ガンネンジ 願念寺 石川郡松任にあつて、眞宗東派に屬する。もと同郡宮丸村に居たことがある。

ガンネンジ 願念寺 珠洲郡大谷に在つて眞宗東派に屬する。

カンネンブツ 寒念佛 藩政の頃寒三十日の間、夜に入ると淨土宗の僧の念佛を唱へて布施を受けるものがあつた。又俗人の寒念佛というて稀に出るものもあつた。白木綿で頭を裹み、その兩端を胸のあたりに垂れ、三度笠を被り、黒色の袖合羽に、白木綿の手巾・脚絆・申掛を着け、高足駄を穿ち、鉦鼓を腹に下げ、二人連れで和讃のやうなものを唱へるものであつた。

カンノカエモン 菅野加右衛門 父母共に韓人で、その本邦に來た時加右衛門は十歳、弟兵左衛門は七歳であつた。初め紀伊に在つ

て淺野氏の臣龜田大隅高綱に仕へ、後高綱の加賀に來るに及び、二人之に従うて前田利常に仕へ、兄は七百石を得て明曆三年に歿し、弟は六百石を得て正保三年に歿。二家共に子孫世々藩に仕へる。

カンノサダアキ 菅野定明 通稱三太郎。字は惟一。竹岡と號し、所居を修竹舎といふた。文化十二年金澤に生まれ、劍槍に達し、又志を儒學に潛め、祿百石を受けたが、その識見明敏儔輩を抜くを以て、終に選ばれて昌平齋に學び、佐賀の枝吉經種、大洲の矢野玄道と共に三傑と稱せられた。時に藩士友田彦介亦こゝに在つて、一日小濱侯の臣某と爭ひ、某を捕へて樓上より地に投じ、爲に聖堂を追はれた。定明又頼三樹三郎と友として濟かつた。後年富田輝象の佐賀に遊ぶや、人あり語つて曰く、貴藩に菅野定明あり、傑物であると。長連寮の鹿兒島に赴いた時、西郷隆盛亦定明の存否を質したといふ。明治元年三月十七日歿、享年五十四。

カンノホキチ 菅野輔吉 實は安田敬太郎の子で、伯父菅野三太郎の後を襲いだもの。三太郎嘗て昌平齋に學び、文武兼ね備へて、輔吉を教導すること頗る嚴格であつたが、輔吉は學を好まず、頑愚敢ふる能はざる如くであつた。然るに義父の歿後、初めてその無學を耻ぢ、藩校に入つて書を學び、遂に山邊沖太郎・井口義平等と交り、明治二年八月彼等の執政本多政均を暗殺した時、その謀に與つた。是を以て四年二月十四日藩の刑獄寮に於いて三年の禁錮を命ぜられたが、十一月廿三日政均の遺臣矢野策平等は輔吉の自宅に謹

カン